

飯田の公共空間どうデザイン リニア開通見据えシンポ

大学院大学の在り方や「ランドスケープデザイン」について話し合ったシンポジウム

2027年開通予定のリニア中央新幹線の県内駅ができる飯田市で4日、周辺環境と調和した公共空間を設計する「ランドスケープデザイン」について考えるシンポジウムがあった。福井県立大の進士五十八(しんじいそや)学長(造園学)らが講演。飯田下伊那地域でデザイン系大学院大学設立を目指す動きがある中、景観を活用したまちづくりや、大学の在り方について議論した。

進士学長は、リニアなど「人類はハイスピード化を目指してきた」とした上で「文明と文化の共存が重要」と強調。「土地を見つめ、その場所ごとに合わせたデザインを行う必要がある」と述べた。

飯田高校(飯田市)でも学んだ北川原温・東京芸大名誉教授は「飯田は農村の原風景が残っている」と評価する一方、「市街地は『近代化』『工業化』『画一化』の弊害が現れている。リニア時代に向けて改善すべき」と指摘。大学院大学創設に関しては「建築士は多いが、ランドスケープデザインができる人は少ない。学べる場としての需要はあると思う」と話した。

飯伊地域には四年制大学がないが今年1月、旧飯田工業高校を改修した「エス・バード」が完成し、信州大(本部・松本市)が航空機システム共同研究講座を開催。さらに若者を呼び込もうと、企業経営者らが「デザイン系高等教育機関設立準備会」を4月に発足させ、シンポジウムを催した。